数学A1演習問題ヒントと略解(第5回)

1. f の偏導関数を計算すると

$$f_x=3x^2-8x-2y+1,\; f_y=-2x-2y+2,$$

$$f_{xx}=6x-8,\; f_{xy}=-2,\; f_{yy}=-2.$$

$$f_x=f_y=0$$
 を解くと, $(x,y)=(1+\frac{2\sqrt{3}}{3},-\frac{2\sqrt{3}}{3}),\; (1-\frac{2\sqrt{3}}{3},\frac{2\sqrt{3}}{3})$ となりこの 2 つが停留点である.

次に
$$H=\begin{pmatrix} f_{xx} & f_{xy} \ f_{xy} & f_{yy} \end{pmatrix}=\begin{pmatrix} 6x-8 & -2 \ -2 & -2 \end{pmatrix}$$
 とすると $\det H=-12x+12$.

- (i) $(x,y)=(1+\frac{2\sqrt{3}}{3},-\frac{2\sqrt{3}}{3})$ のとき $\det H<0$ より点 $(1+\frac{2\sqrt{3}}{3},-\frac{2\sqrt{3}}{3})$ は極大点でも極小点でもない.
- (ii) $(x,y)=(1-\frac{2\sqrt{3}}{3},\ \frac{2\sqrt{3}}{3})$ のとき $\det H>0$ かつ $f_{xx}<0$ より点 $(1-\frac{2\sqrt{3}}{3},\ \frac{2\sqrt{3}}{3})$ は極大点 .
- $2. \ (x,y)=(1,0):$ 極小点 (x,y)=(-1,0),(2,3),(2,-3): 停留点だが極小点,極大点のどちらでもない
- $3. \ f_x = f_y = 0$ を解くと,停留点は $(x,y) = (0,k) \ (k \in \mathbb{R})$. このとき

$$H=\begin{pmatrix} f_{xx} & f_{xy} \ f_{xy} & f_{yy} \end{pmatrix}=\begin{pmatrix} 6k-4 & 0 \ 0 & 0 \end{pmatrix}$$
 より $\det H=0$ となり判定できない.ここで $f(0,k)=0$ 、 $f(x,y)=x^2(x^2+3y-2)$.任意の x に対し $x^2\geq 0$ より $f(x,y)$ の符号は x^2+3y-2 の符号と同じ. $x^2+3y-2=0$ のグラフを考えると

- (i) $k>\frac{2}{3}$ のとき (0,k) の十分近くでは $x^2+3y-2>0$ となり,このとき $f(x,y)\geq 0=f(0,k)$. よって極小.
- (ii) $k < \frac{2}{3}$ のとき (0,k) の十分近くでは $x^2 + 3y 2 < 0$ となり,このとき $f(x,y) \le 0 = f(0,k)$. よって極大.
- (iii) $k=\frac{2}{3}$ のとき (0,k) の十分近くで $x^2+3y-2<0, x^2+3y-2>0$ のどちらもある.よってこのとき極大,極小のどちらでもない.
- 4. $f_x=f_y=0$ を解くと,停留点は $(x,y)=(0,0), (\sqrt{2},-\sqrt{2}), (-\sqrt{2},\sqrt{2}).$ $(x,y)=(\sqrt{2},-\sqrt{2}), (-\sqrt{2},\sqrt{2})$ に対してはいずれの場合も $\det H>0$ かつ $f_{xx}>0$ となりこれらは極小点. (x,y)=(0,0) に対しては $\det H=0$ となり判定できない.ここで f(0,0)=0. $f(x,0)=x^4-2x^2=-2x^2(1-\frac{1}{2}x^2)$. よって $0<|x|<\sqrt{2}$ のとき f(x,0)<0. また $f(x,x)=2x^4\geq0$. 以上より (0,0) は極小点,極大点のどちらでもない.

5.
$$f(x,y)=x^3-x^2+y^2-2xy, \ \phi(x,y)=2x^2-2xy+y^2-1$$
 に対し
$$F(x,y,\lambda)=f(x,y)-\lambda\phi(x,y)=x^3-x^2+y^2-2xy-\lambda(2x^2-2xy+y^2-1)$$

とおく. F の偏導関数を計算すると

$$F_x = 3x^2 - 2x - 2y - 4\lambda x + 2\lambda y, \ F_y = -2x + 2y + 2\lambda x - 2\lambda y, \ F_\lambda = -(2x^2 - 2xy + y^2 - 1).$$
 ここで $F_x = F_y = F_\lambda = 0$ を解く $F_y = 0$ より $F_y = 0$ または $F_y = 0$ またり $F_y =$

- (i) $\lambda=1$ のとき $F_x=0$ より x=0,2. ここで x=0 のとき $F_\lambda=0$ より $y=\pm 1$. x=2 のとき $F_\lambda=0$ を満た す実数 y は存在しない.
- (ii) x = y のとき $F_{\lambda} = 0$ より $x = y = \pm 1$.

まとめると $F_x = F_y = F_\lambda = 0$ を満たす (x,y) は $(x,y) = (0,\pm 1), (\pm 1,\pm 1).$

また $\phi_x=4x-2y$, $\phi_y=-2x+2y$ より $\phi_x=\phi_y=\phi=0$ を満たす (x,y) は存在しない.

以上より条件 $\phi(x,y)=0$ のもとでの関数 f(x,y) の極値を与える点の候補は

 $(x,y) = (0,\pm 1), (\pm 1,\pm 1).$

ここで f(x,y) は連続関数であり, $2x^2-2xy+y^2=1$ のとき $2(x-\frac{1}{2}y)^2+\frac{1}{2}y^2=1$. したがって $2(x-\frac{1}{2}y)^2=1-\frac{1}{2}y^2\geq 0$ より $|y|\leq \sqrt{2}$. また $(x-y)^2+x^2=1$ より $(x-y)^2=1-x^2\geq 0$. よって $|x|\leq 1$. 故に集合 $A=\{(x,y)\in\mathbb{R}^2; 2x^2-2xy+y^2=1\}$ は有界閉集合となり,条件 $2x^2-2xy+y^2=1$ のもとでの関数 f(x,y) の最大値,最小値が存在する.f(0,-1)=f(0,1)=1, f(1,1)=-1, f(-1,-1)=-3 とあわせると点 (0,1), (0,-1) で最大値 1, 点 (-1,-1) で最小値 -3 となる.

 $6.~(x,y)=(\pm 1,\pm 1)$ のとき最大値 $4,(x,y)=(\pm \frac{1}{\sqrt{2}},\mp \frac{1}{\sqrt{2}})$ のとき最小値 0